



2023年 5月15日
第195号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

5月15日号

5月8日に新型コロナウイルス感染症が感染症法の分類である「5類感染症」に移行する前から、国内の旅行者は急増し、今年のゴールデンウィークはコロナ禍以前を思わせる活況ぶりとなり、それは沖縄県も例外ではない。5月の沖縄は観光シーズン真っ只中である。リゾート地として多くの観光客が訪れるであろう沖縄だが、沖縄が背負わされている現実から目を背けてはならない。

今から51年前の5月15日、沖縄県は「本土復帰」を果たした。1945年8月に日本は第2次世界大戦の敗戦国となり、米国をはじめとする連合国の占領下となったが、1952年に発効されたサンフランシスコ講和条約によって独立を果たすこととなった。しかし沖縄は切り捨てられ、本土復帰を果たす1972年までの27年間は米国の統治下となった。平和憲法である日本国憲法が適用されず、米国の統治下である沖縄を「軍事拠点」とし、「銃剣とブルドーザー」で元々住んでいた住民の土地を強制的に接収し、次々と軍事基地を建設していった。沖縄の人たちは本土復帰のための声を上げ続け、1972年5月15日に正式に沖縄県は本土復帰を果たした。しかし、本土復帰を果たしても、今日に至るまで沖縄の基地問題というものはほとんど解決していない。辺野古海岸埋め立て工事も地質調査をした結果、軟弱地盤であることが発覚したにもかかわらず、今も工事が行われている。さらに沖縄周辺の空も米軍の影響を受け、沖縄の玄関口である那覇空港を発着陸する民間航空機も危険といわれる。低空飛行で発着陸することがある。このような現実には首都圏に住んでいるとほとんど実感しない。やはり現地に行つて自らの目で確かめることによつて初めて実感できるのである。

数年前、5・15沖縄平和行進に参加した。日差しが強く高温多湿な中、南部戦跡ルートを何時間もかけて練り歩いた。私たちが住んでいるところでは8月の終戦の日が近づくにつれて戦争が起きたことを目にすることが多い。しかし、ここ沖縄では今もなお基地問題をはじめ、戦争は終わっていないどころか台湾情勢を見据えて軍拡化が進められ、「新たな戦前」ともいわれる状況を肌で実感する。真実を見抜く力を養うためには自らの目で見て、耳で聞いて、肌で感じる必要がある。JR東労組が行う平和研修に参加し、平和な社会をつくるために実践していこう！（A・E）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。